

～エネ研のイオン加速器が超小型衛星の開発に寄与～ 超小型人工衛星「OPTIMAL-1」の通信確立と画像撮影などに成功

株式会社アークエッジ・スペース※と国立大学法人 福井大学は、超小型人工衛星である「OPTIMAL-1(オプティマル・ワン)」を地球周回軌道に投入した後、試験電波によって東京電機大学鳩山キャンパス地上局との通信を確認することに成功しました。

※東京大学で培った超小型人工衛星の開発技術や利活用技術を元に事業化を行うことを目的として創業された東大発ベンチャー

人工衛星成功のカギのひとつに、電子部品が宇宙線の影響によるエラーや故障が起こり難いことが挙げられます。そのために、人工衛星開発時に電子部品の宇宙線を模擬できるイオン加速器などの地上設備を用いて評価することが重要となります。今回の通信成功は、宇宙線耐性試験により評価された電子部品が正常に作動していることを示しています。

本人工衛星の開発において、当財団と東京大学大学院工学系研究科、福井大学及びセーレン株式会社との共同研究など、イオン加速器を用いて行われた電子部品の耐宇宙線評価試験の成果が活用されています。

当財団は、今後もイオン加速器を用いた耐宇宙線評価を通じ、福井大学とセーレン株式会社との共同研究、福井県内企業、福井県工業技術センターとの連携などにより、福井県の宇宙技術、産業技術の振興と研究開発の発展に寄与していきます。

【問い合わせ先】

(公財)若狭湾エネルギー研究センター
企画支援広報部 渡辺(Tel:0770-24-7273)



【エネ研のイオン加速器】